

令和6年10月11日(金)
住吉高等学校 会議室

令和6年度 住吉高校 第2回 学校運営協議会

出席委員(敬称略)

○協議委員 5名

大塚 耕司(大阪公立大学 教授)、中西 洋(大阪市立阪南中学校校長)

森田 英嗣(大阪教育大学 教授)、山内 憲之(PTA 会長)、

山崎 大義(ベネッセコーポレーション)

○学校側 11名

中山(校長)、久堀(教頭)、田仲(事務長) 大門(総合科学科長)、

西本(国際文化科長)、中川(国際部長)、三石(進路指導部長) 杉本(生活指導部長)、左(教育相談)、山田(総務部長 司会担当)、山内(記録担当)

1. 学校長・会長より挨拶

2. 今年度の本校の取り組みについて

(1) 本年度の学校経営計画の進捗状況(中山校長)

Step Up Labo 企画による研究授業、9月に授業力向上研修

教科横断型授業を3回実施、

課題研究の発表会「探究フェスティバル」を9月に実施

住高ネットワークの定着

海外の高校との共同研究

国際部、探究活動、人権HRのコラボ企画

遅刻指導・挨拶指導 身だしなみについて指導の検討

(2) 総合科学科の取り組み(大門先生)

分離融合型・理数に加えて、人文科学などにも課題研究の取り組みを広げる

国際共同研究・ノウハウの発信

教科横断型プロジェクト 6月に人権国際探究のコラボ

○総合科学科として

・科学技術人材の育成

① 科学探究 ②充実した実験・実習 ③活発な発表活動 ④国際豊かな活動

○現状の取り組み

・入手したデータを扱えるように…テキストマイニング、グラフ作成など

回帰分析（大阪工業大学との連携）平均値の判定

- ・ 大学や企業へ夏休み大阪公立大学ラボ訪問、12月大阪大学訪問予定
- ・ 2月の発表会に中学生を招待し、自由研究の発表に招待する予定
- ・ 10月に総合科学の探究合宿
- ・ 六甲アイランド高校と 合同発表会
- ・ 国際科学探究ツアー：ハワイ大学へ7泊8日
- ・ 台湾・ベトナムとの共同研究 「水質について」
- ・ NETの指導：科学英語で課題設定から調査までを英語で行う

2年生は abstract を書く力の育成をめざす

(3) 国際文化科の取り組み

○進捗状況

希望者の土曜講習、水曜7限の実施

英語暗礁大会、英語合宿、ディベート大会

アメリカ2名、ドイツ2名が1年生の国際文化科に在籍中

ユネスコスクール活動に取り組んでいく

○国際交流行事

アメリカコミュニティカレッジの紹介

韓国のクムダン高校による訪問 大阪グローバル塾に本校生徒が多数参加

○今後の予定

12月チョンダム高校受け入れ

ベトナムの高校、台湾の姉妹校を2月の探究フェスティバルに招待

大阪マラソンボランティア 大阪大学の留学生との交流 JICA 出前授業

課題：総合科学科の参加数が少ない

冬は学校の受け入れを増やすのが難しい（授業との兼ね合い）

(4) 進路指導部の取り組み

共通テストに情報が加わり、6科目になる

受験者数は微増（国公立型（4教科以上）は格段に増えた）

一般に年内入試（指定校や推薦系）が増加傾向だが、住吉は減っている

(5) 生活指導部の取り組みについて

①遅刻指導

今年度目標 2200人以下

昨年に比べて少ないが、6月に雨で遅刻増えている

担任会で生活指導の状況を共有⇒各クラスに注意喚起

②挨拶マナー指導

クラブ連絡会で4月の目標に対する自己評価⇒改善すべきところを話す

② スマホ指導について

授業中に机に出すことを禁止する規則によりスマホの指導が減ってきた

④服装指導

標準服着用を義務付けられている日がある

日常の中での服装のだらしなさを改善していきたい

頭髪指導、対話で内面の成長

(6) 教育相談の取り組みについて

SC1 回で4名のカウンセリング

SSW ヤングケアラー、虐待、発達に課題のある生徒への支援助言

保健室来室者が増加・・・何となく教室に入りづらいという理由が多い

3. 質疑・協議

- ・海外研修がかなり多い・危機管理で注意した方がよかったことは？
→言語面は問題ない、オーストラリアでのホストファミリーと意思疎通できない
引率経験がある教員よりノウハウを共有 航空券が高く経便でないと予算を越える
- ・情報が共通テストに入ってくる データの分析講座をやっているのは共通テストも踏まえているのか
→自分たちの意見を客観性という意味で伝わりやすいようにする目的でやっている
- ・住吉は特色があると思うが、推薦入試志願者が減ってきているのはなぜ？
→推薦用にいろいろ対策する労力と合格率に見合っていない人が多い
推薦型で不合格⇒「これだけやったの〜に」って折れてしまう
第1志望のハードルが高いのかも
- ・保健室来室者が令和2年度から増加傾向、特定の生徒がきているのか、まんべんなく来ているのか？相談としては、心の問題？
→頻繁に保健室に来る生徒もいる 友人関係や保護者との関係、友人関係
コミュニケーションが希薄なのか、何気ないことに不安を感じる生徒が増えた
- ・国際科学高校として教科横断型などの評価の基準をどのように定めるのか、チームで取り組んでいるからこそ、共有していく必要があると思った。新しい試みに取り組んでみたらいいのではないかと思う
- ・AI を利用したりするのか？
→AI の利用はしていない（端末の権限あり）上手く使えるのか不安（頼りきろうとする傾向は強い）精査せずに使うのを指導していかないといけない
- ・子供たちのモチベーションの高さが生活指導などにもつながっていそう。
モチベーションの高い生徒をどうやってつまづきを見守りながら支援していけるのかが大事になってきているのかと思う。高校が中学校のように生徒を支えるという

ような発想で指導していけば、それも強みになるのではないか。

- ・ 特色ある魅力がある中で、武器や強みになり、出口につながるのでは？
 - 近畿の私立は学力中心、全国的に3割を超えてきた
 - 1年生の時から大学のことを踏まえたうえで探究を行なえば、もっと進路に役立つように思う
- ・ 今のたくさん魅力をどうやって発信？
 - HPを同窓会の支援でリニューアル INSTAGRAMで魅力発信 情報を更新
- ・ AIを壁打ちに使って、力をつけていく
 - 書く力が弱くなってきている⇒トレーニングが必要
- ・ 虐待の件について どこまで危機と判断するのは難しい
本人がSOSを出してきた生徒は助けるべき
あらゆるケースを想定しながら取り組んでいく必要がある

5. 校長謝辞

6. 今後の学校運営協議会の開催予定

第3回 令和7年2月13日(木) 15時30分～17時